廢墟と復興
福井震災一周年記念

序

福井縣知事　小幡治和

昭和二十三年六月二十八日午後五時十四分。子供は學校を了えて嬉々として家に遊び、妻は樂しき夕食の準備に台所に働き、夫は一日の勤勞を了えて家路を辿り、或はまだ生産の增强に、農地に工場に在つたであろう。越前の天地は平和再建日本の樂しき初夏の夕暮の姿であつた。

然し僅か一瞬の後、この平和の郷は正に地獄の形相と一轉したのである。一瞬、天は裂け、地は割れ、地表の事物悉く倒れ、潰れ、生くる者は血を吐き、傷つき、生命を失つたのである。

酷薄極まる自然の暴威、人生の如何にはかないものであつたか。然し、絶望のドン底から沉然と自覚されて來たものは「無一物無盡藏」の達觀と「轉禍爲福」のたくましい意欲とであつた。

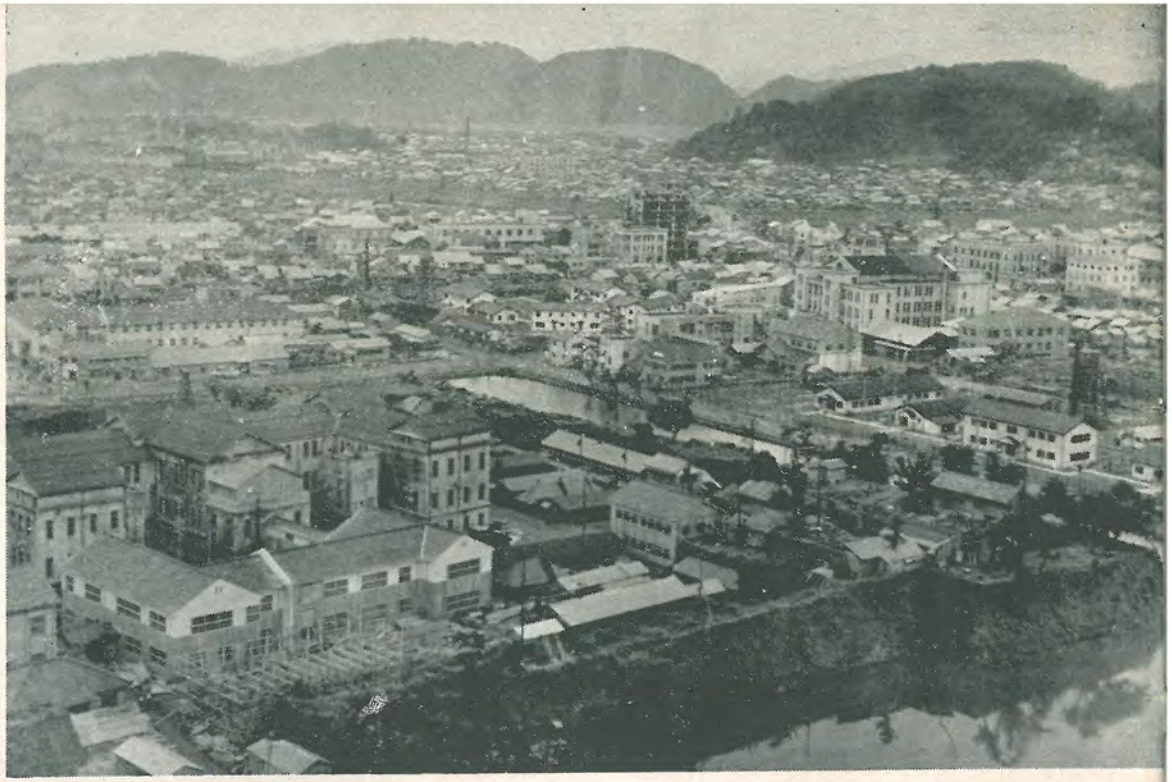
さあ、それからの福井縣民は官民老幼男女を問わず一齊に起ち上つた。救濟へ、復舊へ、建設へ、ひたすらに立ち向つたその姿は寧ろ凄壯であつた。汗と涙でぐしゃ〳〵になりながら、默々と齒を喰いしばつて働き拔いた福井縣官民の姿は、全く全國同胞にお見せしたい尊い姿であつた。

震災一周年を記念するこの寫眞画報は、破壞のドン底から起ち上りつゝある官民必死の勝負の生(なま)の記錄である。

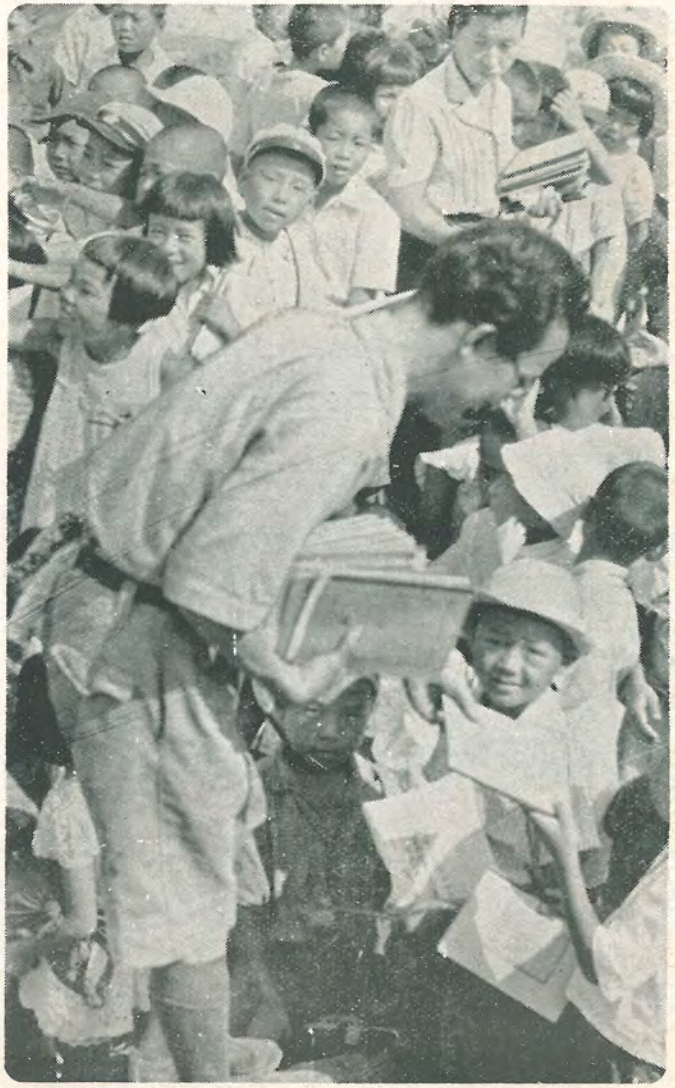
眞劍な御助力を願つた皆樣にとつて、感慨無量の記念ともなれば幸甚である。

不死鳥の福井市

燒土、瓦礫、水害から三度起ち上つた福井市、それは昭和二十年七月十九日の戰災、同二十三年六月二十八日の大震災、同年七月二十五日の水害、想い出してさえゾツとする惡夢の連續でゐつた。だがその度毎に鬪魂は入道雲のように湧き上つてモリモリと逞しい再建譜を奏でてゆく。福井市の震災前戸數は一万七千八百五戸、うち全壞一万三千二十戸、全燒二千四百七戸で無災戸數は僅か



二千三百七十八戸にしかすぎなかつたが、翌二十四年六月二十五日現在調査による復舊狀況は本建築三千二百七十戸、バラツク四千六百七十七戸、修理完了五千六百五十八戸で震災前に比べると約八十%の復興ぶりを示し、ローマの廢墟もかくやと思われた震災直後の荒凉たる展望を知る人々にとつては、よくもかくまで起ち上り得たと、底知れぬ人間の生活力を今さらのように驚くばかり。



泉の如くに

義捐金品の山積

つて三笠宮様には七月四日夜、東京驛御發、翌五日午後零時三十分福井縣廳御着、小幡知事よりの被
に見受けられたが、それから御徒歩または自動車にて市内御巡視、日赤福井支部病院や國立鯖江病院
丸岡、金津の順で、息もつかず烈震地帶の町村を巡視され、路傍の人達にまで「元氣で頑張つて下さ
ゝ使いにならず　玉なす汗もお厭いなく、苦熱ものかわ、眞情溢るゝ御慰問をつゞけられ、被災の
更生、一松建設、水谷商工、栗栖安本長官、富吉遞信の各大臣ほか多數の要人が續々來縣、救濟と復興
に引きもきらず、義捐金は一億六千万圓、寄贈の物品は巨大な愛情山脈となつて聳え、意氣銷沈した

愛情は湧く

三笠宮の御慰問と

福井地方大震災の悲報が傳えられるや天皇様には、直ちに三笠宮様を御名代として御差遣に決定、よ
災狀況說明を御聽取の後、午後二時三十分には福井市役所御着　荒凉たる福井市街御展望、感慨深げ
では親しく重傷の被災者を御見舞になり、同夜は鯖江御一泊、翌六日には松岡、森田、磯部、高椋、
い」と溫かいお言葉を投げかけられた。この日、三笠宮様にはカーキ色の洋服を召され、扇子一本も
人々はたゞたゞ感激、日本の傳統未だ滅びずの幾情景を示した。引續き中央よりは芦田首相ほか竹田
の具体化に眞劍な對策を惜まなかつた。一方、「福井を救え」の全國同胞より寄せられた愛情の援護
被災の人達に、起ち上る無限の活力を吹き込んで行つた。

今齊の光彩

部落は、すぐその足元からまた火災の襲うところとなつた。倒壞の家の姿に、涙も枯れ果てゝ終つた被災の人達であつた。中でも悲參を極出すことが出來ず、みすみす犧牲に供し、阿鼻叫喚の地獄繪圖を繰り二戸、半壞家屋八、四七二戸、燒失家屋四、一六八戸の家屋被害と、であつたかを裏書きしていると云える。

國の人達は　驚くほどの執拗さをもつてこうした苦難に堪える能力をまた震災　水害と、僅々三ケ年間に襲いきたつた災害三重苦に、怯まを闘いとつて行つた。生命の儚なさ、人力によるものゝ脆さ、そうしに撰がる人力の逞しい肯定面を、今更のように發見して意を強くした

で行つた。

秩序

あの夜の業火……

震災に火事は附物、家屋倒壊とともに濛々たる土煙に包まれた街やからせめて家財だけはと思つたのも束の間、紅焔に崩れ落ちるわが家めたのは、最愛の肉親を迫り來る火焔のため、家屋の下敷きから救いひろげたなど、この世の姿とは思われなかつた。倒壊家屋三三、四八死者三、八五八名、負傷者二一、七九〇名の人命被害が、如何に烈震

だが風雪の自然的暴威と不斷に闘うことを習慣づけられているこの持つていた。勿論　國を擧げての支援もあつたが、さきには戰災　今ず、屈せず、嘆かず、無一物無盡藏の達觀の中から轉禍爲福の復興力たことを身に泌みて痛感した半面、その否定面を越えた彼方に、無限お互いであつた。

かくてあの夜の業火は、今宵の光彩となり、混亂はまた秩序を生ん

混乱と

……きようの日

次いで震災に見舞われるや、かくも十五度に傾斜し、巨大な六階建の鐵骨を誇つた近代建築であつストが「ピザの斜塔だ」などとお洒落な表現はしたが、そこには明るい南歐の空を彩るピザの斜塔に暗い記憶をのみ呼び起したものだが、それもやがて巨費を投じて取除かれ、この一帶は再び福井

震による龜裂の標本みたいに云われたあの大龜裂（實はこの程度のものは數多くあつた）も、今でれ、行樂の春の平和な散歩街ともなることであろうなど想像される。

しかすぎない。しかもその後に派生した經濟的客觀狀勢の不利は、苦難なる前途を思わせるものば瓦のかけら石のくれ今日わが鋤くはかゝる大地ぞ」と謳つた決意をもつて当れば、復興はかならず

あの日

福井驛通りに豪華を誇つた大和百貨店も、さきの戰災で燒かれたゞけに、醜怪そのものゝ印象を行人に與えた。あるジャーナの面影など毛筋ほどもなく、災害の生々しい記錄のみが行人のの繁華街として登場してきた。

一方、福井縣廳前御本城橋附近で、パクリと大きな口を開け、は跡方もなく修覆され、やがては濠に向つて櫻の並木でも植え

もちろん災害より一箇年、われ等の描く復興はまだホンの序曲かりであるが、さきに福井を訪れた詩人富田碎花が「こゝだくわれ等のものだ。サア頑張ろう。

沼ゝさかな

提灯と慈母觀音

一瞬の燒土福井市にあつて、これは奇蹟的に助かつた東別院境内の復興慈母觀音堂のお祭提灯が、風のまにく揺られて、うらぶれの身をかこち顔であつたが、今では假堂ながら寶永上町の十字街横に移轉、三十三体の分身も市内各所に安置され、さすが佛教國福井らしい復興ぶり。

白骨燒土に劇場

文明は王國の屋つ上に建てると、黑ハルネ、マランは呪そしたが、しかく陰慘は興味は内藏せずとも「震災は白骨の上に大劇場を建設した」とこうべきものに、一瞬にして倒壞、次いで燒失した福井市の劇場、映画館があり、その大量燒死は、いたく万人の涙を

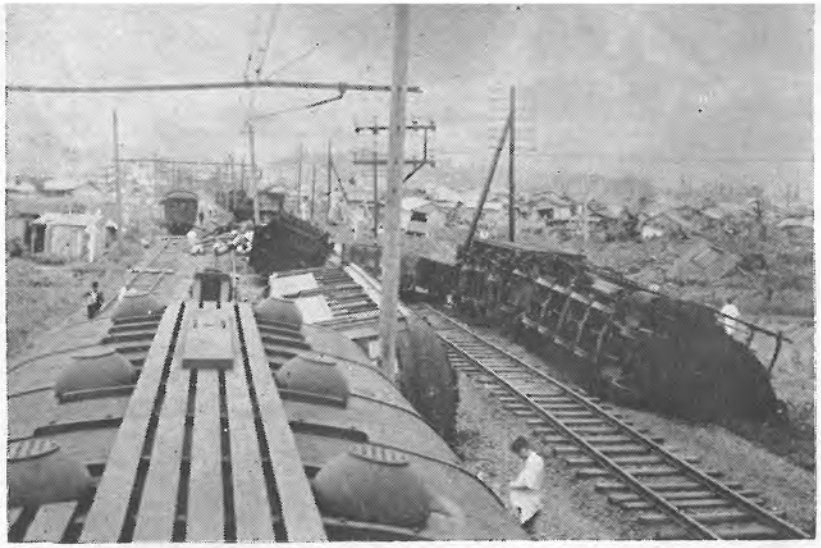
この足取り

電車の畫寢

中角橋の魔術

電車の畫寢は凡そあり得べからざること。如何なる場合も電車は起ち上つて走るべき筋合いものだが、だが震災当時の京浜電鐵電車は、御覽のごとく大多数が畫寢、行人の足をすつかり奪つて悲鳴を擧げさせたものだが、戰前ごまでは通ぶ及ばぬとしても、畫寢の電車も今では起ち上つて、ホソと慈眉を開かせた。

九頭龍川架橋中で最堅牢を誇つた中角橋でさえ、さながら客人細工がバラされたように解体したが、橋脚、橋台は改造もしくは補强、鈑桁は整形して再使用、床版高欄は改造しかくは美事に竣功、その他の橋梁もトン〳〵完成してゆく。



丸岡町よ立ち起

城下町として古くから榮えた丸岡町は、今では農産物資集散を主とする商業都市として、越前北部で重きをなしていたが、何分にも震央地であつたゞけに、倒壞五百四戸、燒失千百七十六戸、家屋の被災率百%という慘害をうけ、死者だけでも三百二十名を算したが、八十歳の老齡を復興に挺身する友影老町長を中心として、舉町的な復興への熱意はグン〳〵物を云つて、古い傳統の街は新興の氣運漲る近代都市的風格を日毎に身につけてゆく。

その都計によると、町勢の根幹をなす國道十二号線は町の中央を南北に縱斷し、縣道勝山—三國線は國道東方に並行して南北に貫通しているが、何れも幅員が狹く曲折が甚だしいので、まずその線形を改め、國道は幅員十五米に、縣道は十一米に擴大し、京福電鐵本丸岡驛前から國道までは幅員十三米に、それから縣道までの幅員を十一米で連絡し、以上の三線を骨格として宅地利用の實用に即應した幅員四—八米の補助街路を配置するほか、水路の一部を移設し排水の整備をも行う。ほか小學校用地は現在の二千五百坪を四千坪に擴大し、七千坪の公園計畫、さては街路や水路の整備に必要な用地の確保や、宅地造成、宅地の利用增進を圖るための二十三万二千坪に及ぶ土地區劃整理など、總工費五千九百五十万圓の都計は、大丸岡の實現に逞しい足取りを進めている。

城潰え
燒土に築く町づくり
人ものなべてみな新しき
……丸岡町にて……

再建の金津町

舊き殼から
みな脱ぎすてよ道廣く
平野の眞中、物豐かなり
……金津町にて……

毅倉坂井郡の中央部に位し、西南一帯に肥沃な越前平野を控える金津町は、鐵道北陸本線と三國港線との分岐點であり、京福電鐵永平寺線の起點に当り、古くから農產物資の集散地として榮え、近年、化學工場や織物工場の出現によつて工業都市的な地歩も築き、發展の一路を辿つていた折柄の、あの大烈震であつた。全街千二百三十戸が餘すなく倒壞又は全燒、死者二百名、負傷者千百五十二名という致命的な損害をうけながらも、絶望を知らぬ不死鳥は復興の翼をひろげて、焦土の中から舞い上つた。

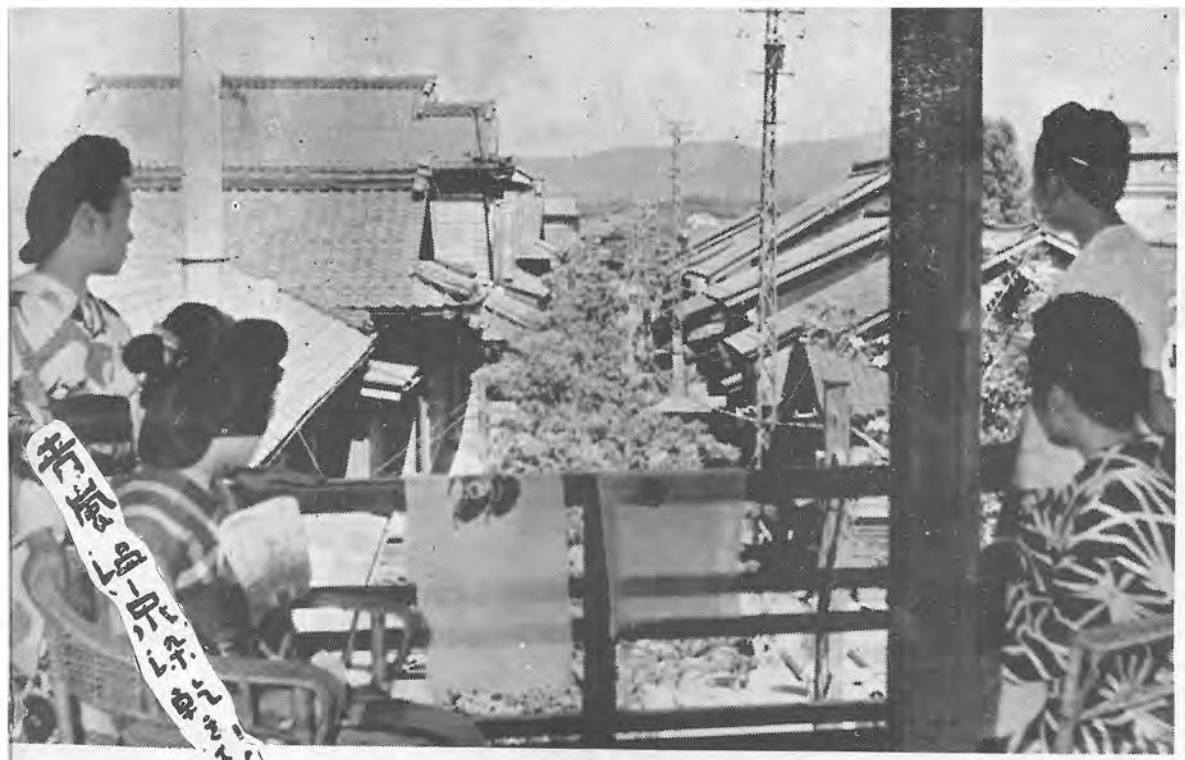
即ち總工費四千三百四十万圓を投ずる都市計畫によると、金津驛前を起點とし竹田川に並行し、市街地の中心部を東西に貫通する縣道金津停車場線および縣道金津—吉崎線の一部を幅員八—十五米に、これと並行して市街の南方を通ずる縣道勝山—三國港線を十一米に擴張し、これらの東西幹線を連絡する幅員十一米の三路線を配置、さらに縣道金津—川上線を八米に擴幅して幹線街路網を構成し、この骨格に即應する四—八米の補助街路を配置するほか、十九萬坪の土地區劃整理を行つて理想都市の實現をめざしている。

かくして道路狹隘、宅地の不整形など舊き金津の殼を脱ぎすて、一路躍進をめざす金津町ではある。

温泉郷・芦原町

「花の雫か、芦原の出で湯」――と謳われ、さては「打つな闘の戸、芦原は禁猟」とも稱えられ、現世樂園を稱えられた泉都芦原ではあるが、天帝による震災の戯れはこゝも脱れず、倒壞九百十二戸、半壞三百三十二戸でやはり深刻なものであつたが、火を防いでの殉死や、全町民擧げての平素の訓練のため、燒失を僅か一戸で喰いとめ得たゝめ、復興は頗る快調を示し、旅館二十余軒はいずれも内湯に惠まれて千客の來遊を待ち受けている。なお單に紅燈の歡樂境としてだけではなく、神經系統、筋肉や關節疾患、胃腸病、皮膚病などに最も利く鹽類泉で、地震による泉脈の混亂も今はすつかり立ち直り靈泉コンコンと湯槽を溢れている。

總工費二千百八十萬圓を投じて着工の同町都計案によると、縣道勝山―三國線を幅員八米に擴げ、これを骨格として幅員四―八米の八街路線を設け、温泉街を中心に街路網の完成を急ぎ、明るいモダン泉都の再現に拍車を加えているなど、「懐しの西日本の芦原」なのである。



芦原温泉に来たる時は、

湯浴びする
ロダンの女仄かにも
鏡に迫る湯の街の朝

……芦原町にて……

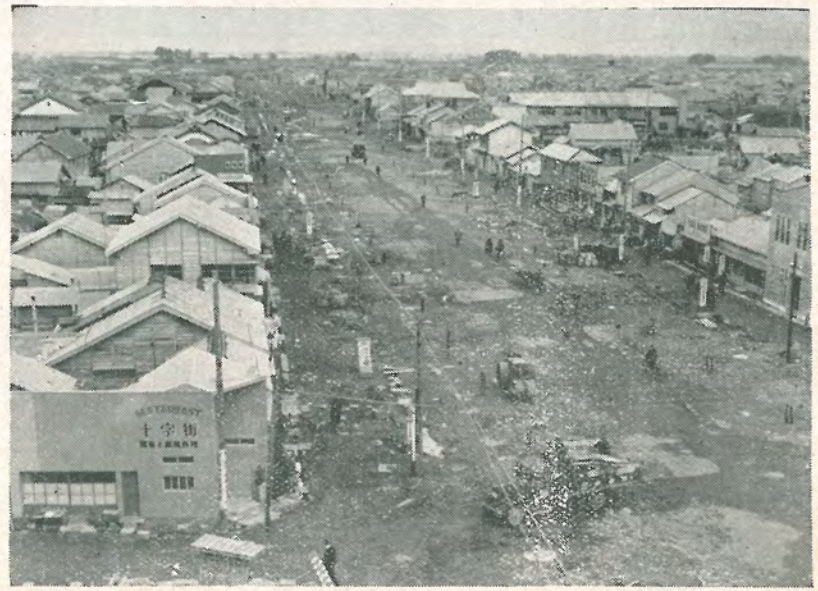
松岡町の急ぐ都計

松岡町は城下町として都市の構成はかなり古い。そこへ織物工業が發達したゝめ、家屋と工場とが無統制に櫛比し、街路は狹く、迂余曲折し、さながら迷宮にでも入り込んだ感じの上に、丘陵上にできた町だけに、一部の道路は雨に洗われて歩行の自由を奪うという調子で、町勢發展上最大な癌だと云われていた。そこにあの震災の見舞うところとなり、全町の約七〇%が倒壞又は半壞、全燒の憂目をみたのである。

こゝにも又轉禍爲福の施策が強力に取上げられたのが總工費四千八百二十萬圓を投ずる都計案である。それによるとまず街路では、同町の骨幹である縣道福井—松岡線、松岡—勝山線、松岡—丸岡線の線形を改め、十一米—十五米に擴幅の上、町の西端に在る變電所附近から分岐、町の中央部を東西に縱貫する新線を設け、これを街路網の根幹として、これに幅員四—八米の補助道路を適当に配置することゝし、目下新設の道路は着々として進捗している。街路、水路などの用地確保と、宅地の高度利用を計るため、面積二十一萬八千坪の土地區劃整理をもめざしており、將來は町民の保健と、兒童の福祉上、市街の中央部に公園をも設けることゝなつている。何はともあれ松岡町も今、時代の脚光を浴びて日毎に逞しく變貌してゆく。

丘(おか)と清流(ながれ)
松、若鮎の跳る街
災苦に堪えて伸びてやまずも
……松岡町にて……

これやこの
福井の銀座本町の
夏の夕べの本ブラぞよき
……本町通りにて……



そのかみの
名もなつかしき大名町
新しき世にもかく栄ゆるかな
……大名町通りにて……

再建へ

レート福井市

その姿に無限の悲愁を感じ、一度は茫然と腕組んだものである。
から與えられた惜みなき急援の金品、國や縣が差延べる復興への支援、
かくも鮮やかな近代都市が誕生し、封建的な舊殼を惜氣もなく一擲し

して總數二十二線を合理的に配置する街路網は、幹線が幅員四十四米
歩道、半速道、軌道、車道、植樹帶まで設けられる。繁華街には鈴蘭

飾窓に
光まばゆし呉服町
紺の暖簾の淡さ思い出
……呉服町にて……

絶望か

燒土に築く久

何人もが倒壞したわが家の梁柱や瓦礫、さては燒跡に腰を起し、慘めな一家
だが不思議なことにやがて無一物は無盡藏の活力を與えてくれる。全國民か
それに捨身から掴み取つた再建意欲は、日と共に、結實して廢墟の中から、
てゆく。
福井驛を中心とし東西に走る線二本、および市街南北に貫く國道線を基幹と
——三十六米と云つた寛濶なもので、今までの三倍乃至四倍の廣さとなり、
燈がズラリと並んで、明るい都市美を繰り展げている。

片町よ
豊かな恋に惠まれし
麗人(ひと)あり顔に榮えゆくかな
……片町通りにて……

春江町の超復興

坂井郡の南端にあつて、同地方織物工業の中心地として根強い底力を誇つていた春江町も、あの大震災ではやはり百%の被災率で、全街二千四百十八戸が倒壊または灰燼に歸し、廢墟さながらの街と化し、死者四百三十七名という尊い犧牲者を算したのであつた。從つてこの犧牲を無駄にしては相濟まぬの、擧町的精進は、なか〳〵に快調な復興ぶりを示し、その底力のほどに畏敬させられて終う。だがこの町の街路は、罹災した他の五町に比べ一層狹くかつ多く屈曲していたことが、かく犧牲者を多く出した原因でもあるので、目下施工中の都市計畫では、市街地を形成している區域の街路は幅員を八米—十五米とし、補助道路はこれを六米とする。水路にあつては、排水、用水が不良なのに鑑み主要部分を改修し、現狀を精査して附替を行う。

綠地は市街地形成の區域では、全面積の三%を保留し、さらに數ヶ所に施設する。そのほか省線春江驛前廣場を擴張改良し、さらに驛前に宅地を造成して將來の發展を計る。市街地區域では神社を統合し、一社として相当面積を保有させるほか、墓地の移轉を行つてその跡を公園化する。各大字間の連絡道路も是非必要なので極力整備を計る等々であつて、その總工費約四千萬圓、新時代に即應する町勢發展の氣宇は逞しい。

汝が鋤くは
瓦のかけら石の塊
かくも家々建ち並びたり
……春江町にて……

新粧容の森田町

震災前戸數一千七百七十三戸の内、一瞬にして一千七百二十三戸が倒壊、半壊は僅か七戸、燒失四十三戸という文字通り罹災率百％の森田町、しかも死者三百名、負傷千二百名という修羅場と化した森田町ではあるが、今では幅員豐かな道路の兩側に、新裝の家屋がズラリと並び「新粧容の森田町」と云つた感じである。

想うに森田町は、昔から九頭龍川の渡船宿場として市街地を成したところだが、近年は織物の町として筬の音に明け暮れ、今日の發展をとげたのであるが、國道十二号線を始め何れの街路も極めて狹小で、曲折が甚しく、これに加えて激震による地盤の陷落により、排水系統が破壞されて終つたので、總工費四千四百二十萬圓におよぶ都市計畫が實施の運びになつた譯である。

それによると町勢の骨格をなす現國道十二号は、家屋櫛比し、幅員の擴大と線形の修正が困難でありかつ國道船橋架設による取付街路の關係から、現路線を變更し、これと並行に幅員十五米の街路を同町中央部に縱斷せしめ、縣道森田停車場線を十一―十五米に、縣道森田―中角線を八―十一米に擴幅し、この三路線を骨格として幅員六―八米の補助街路を配置するものであり、さらに宅地利用の增進と、公共用地確保のため十二萬二千八百坪の土地區劃整理を行い、町將來の發展に備えるものである

九頭龍川の
渡船の宿場潰ゆとも
筬のたくみ場みな甦える
……森田町にて……

堤防の復舊

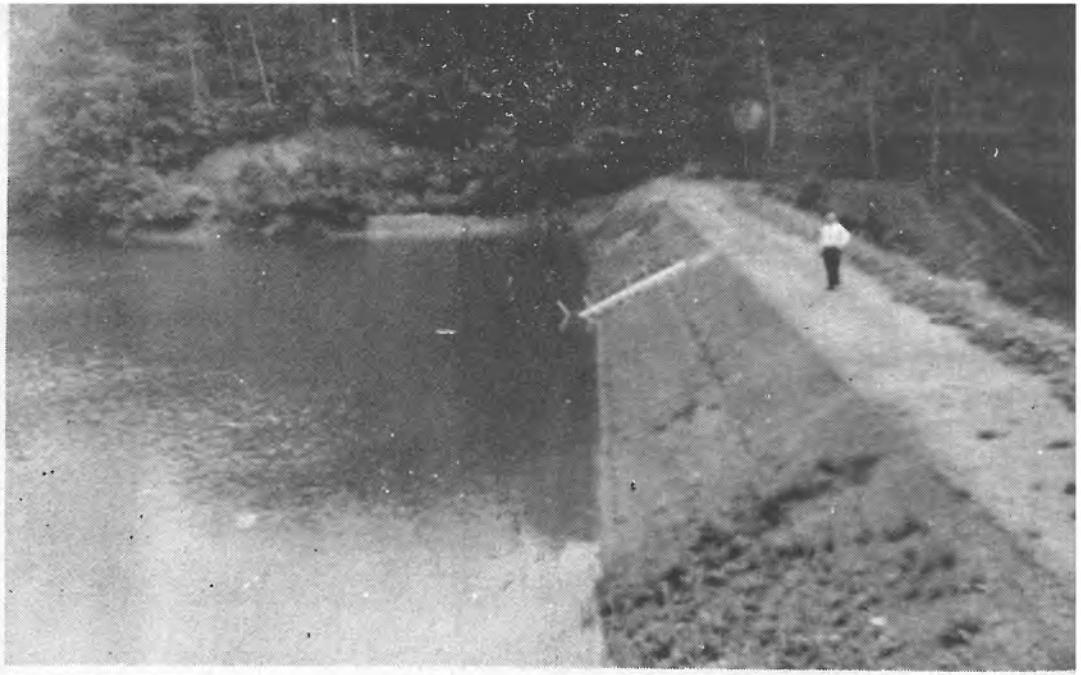
震災による九頭龍川兩岸堤防の被害は實に甚大であり、まず總体に沈下したばかりか最も甚しい箇所では約三米も沈下、その最惡狀態のところへ約一ケ月後の大水害となり、右岸左岸を合せて堤防決潰百四十三ケ所、その延長實に一万一千八百間、穀倉越前平野の大半を濁水化して終つた。よつて政府では縣の稟請によつて一部を政府直轄工事とし、目下全力を擧げて復舊を急いでいるが、玆もまた客觀狀勢の惡化に伴つて經費難に陷り、局面打開に大童である。寫眞——上右は水害による吉田郡中藤島村燈明寺地籍堤防の決潰狀況とその復舊現狀　上左は坂井郡木部村川崎　池見間の堤防決潰狀況とその復舊現狀。

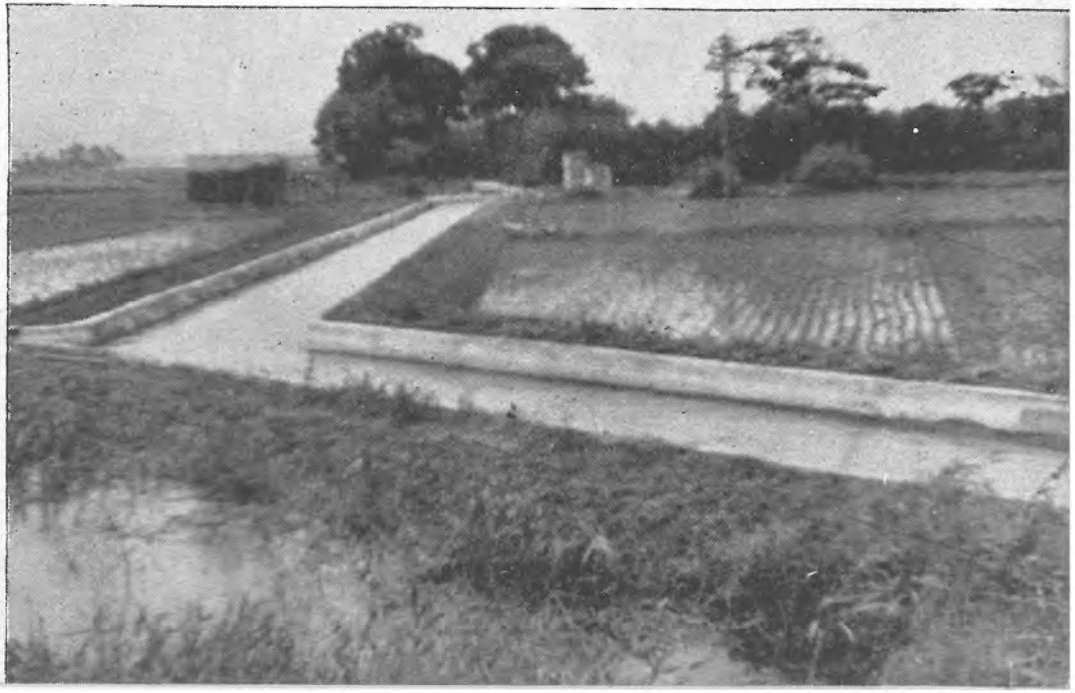
道路の復舊

本縣は全國的に見て悪道路の代表的な所とされていた。国道・縣道ともに幅員は三米程度、そこへあの十烈震だ。崩壊・亀裂は無數に生じ、それは復興作業のガンともなるので、この震災を契機に九米―一四・五米に擴幅し、眞に產業交通の動脈的使命を完うせしめたいとあって、重要路線三ケ年復舊計画は樹てられ、その總工費四億七二五百万円内今日迄でに二十八%の進捗をみたが、殆り七二%は今後に属し、經濟九原則の枠に縛りつけられ起工済のものも国庫補助の休止ぶみで氣息えん〳〵、だが何はともあれ縣的熱意で所定計画を突破せずにはおかぬと関係者は縣命である。寫眞―上右は隅井市と吉田郡境の舗装された北陸道の亀裂状況、下ははその復舊現状上左は三十名の生埋

着々成る

未曾有の大被害を蒙つた。本縣農政の劃期的施策として取上げられてに等しいだけに、如何なる障害も突破して强行せねばならぬ用水工事木部村坂口用水、中右は同郡木部村梅ヶ崎用水、中左は同郡東十郷村口溜池の災害狀況。





用水工事

震度六百ガル以上に達した福井震災だけに、農村の用水施設もまたいる農地乾田化計畫も、用水工事完備の前提なくしては描かれた餅ではある。寫眞―― 右上、吉田郡下志比村谷口溜池、同下、坂井郡十郷用水五條水閘（以上何れも完成）左上は五條水閘、同下は谷

農業共同作業場時代

新しい農村經營は、農民個々が横に緊密な協調をとつて、農産加工に、家畜の飼育に、厚生施設に、農機具共同利用に、營農の合理化と近代化を計ることでなくてはならぬ。震災を契機に生れた新設共同作業場は總計一千五百十一棟、世はまさに農業共同作業場時代であり、それは地主對小作人の縦の封建農村制に對する嚴しい抗議でもある。寫眞右上は芦原町田中農業共同作業場外觀、同下はその內部、左上は東藤島村安丸農業共同作業場、同下はその作業ぶり。

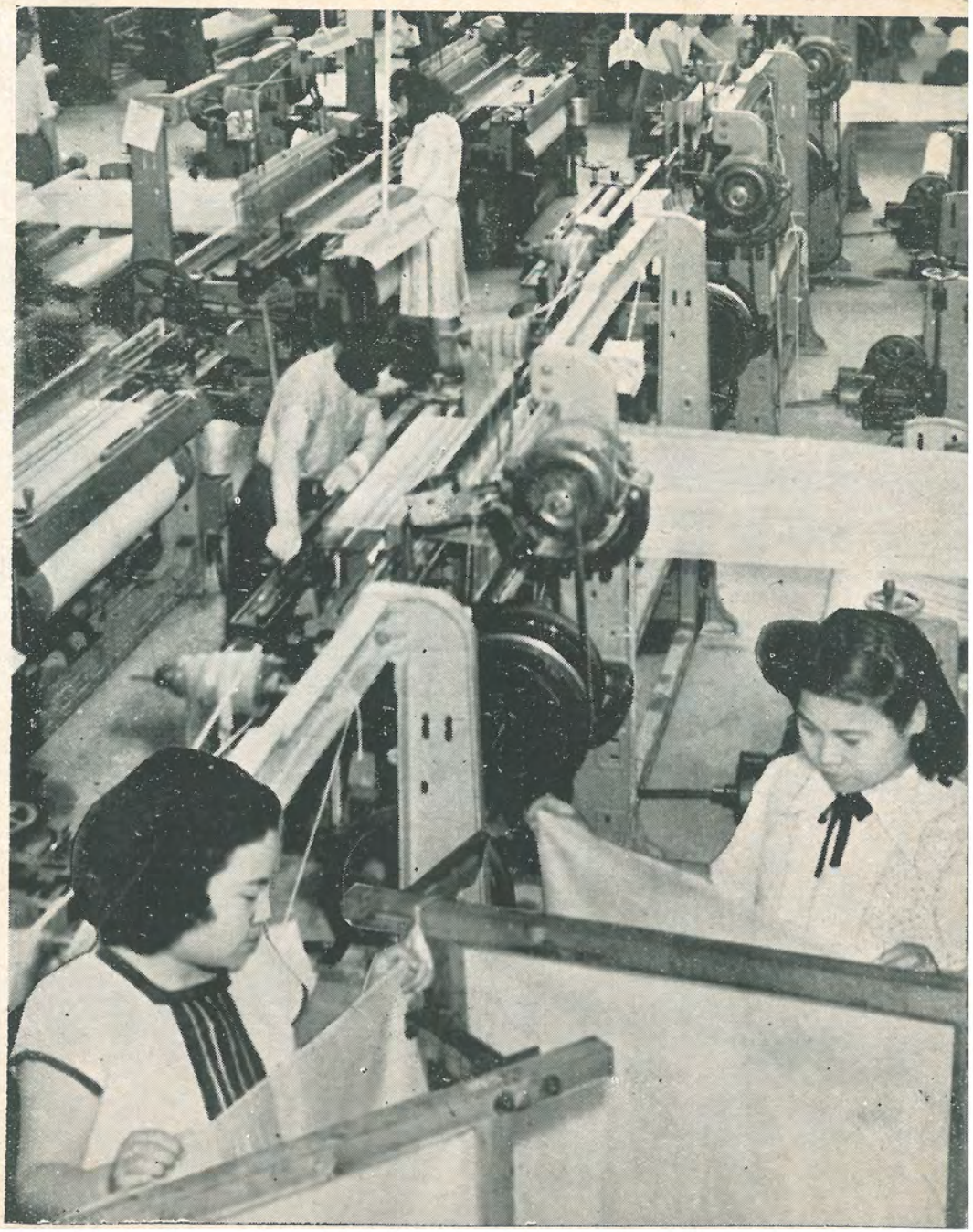
急げ校舍新築

縣内校舍の三十%が無慚な被災を蒙り、七万二千五百名の生徒が翌日からの學び舍を失つた。その被害坪數八万三百一坪、これに對し二十三年度の復舊率は四十%、二十四年度は三十九%を目標としているが、嚴しい經濟的客觀狀勢はなかなかに樂觀を許さず、倒壞当時そのまゝに放置された學校の殘骸を隨所に見出し、そゞろに哀感を禁じ得ない。寫眞―右上は落成した福井市藤島高等學校、下は同市春山小學校、左は倒壞した同市松本小學校、急げ急げ校舍新築、せめて次代の子供にだけでも明るい夢が與えたい。

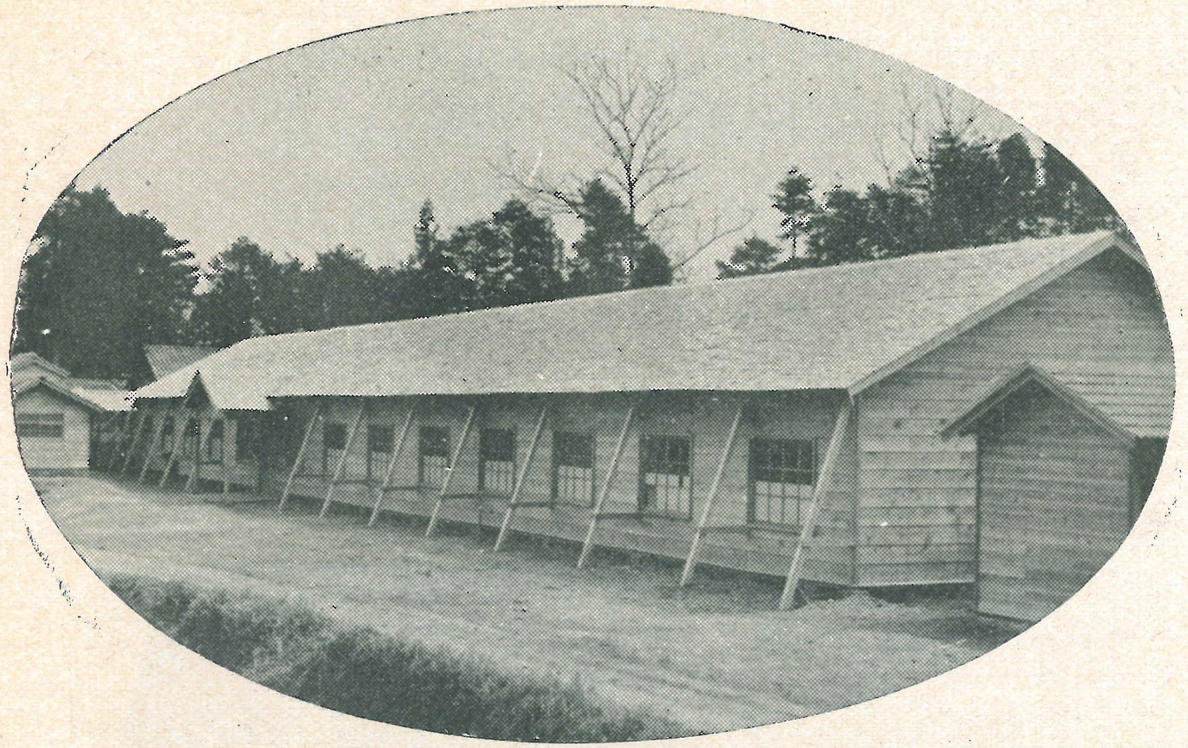
繊維工場街から

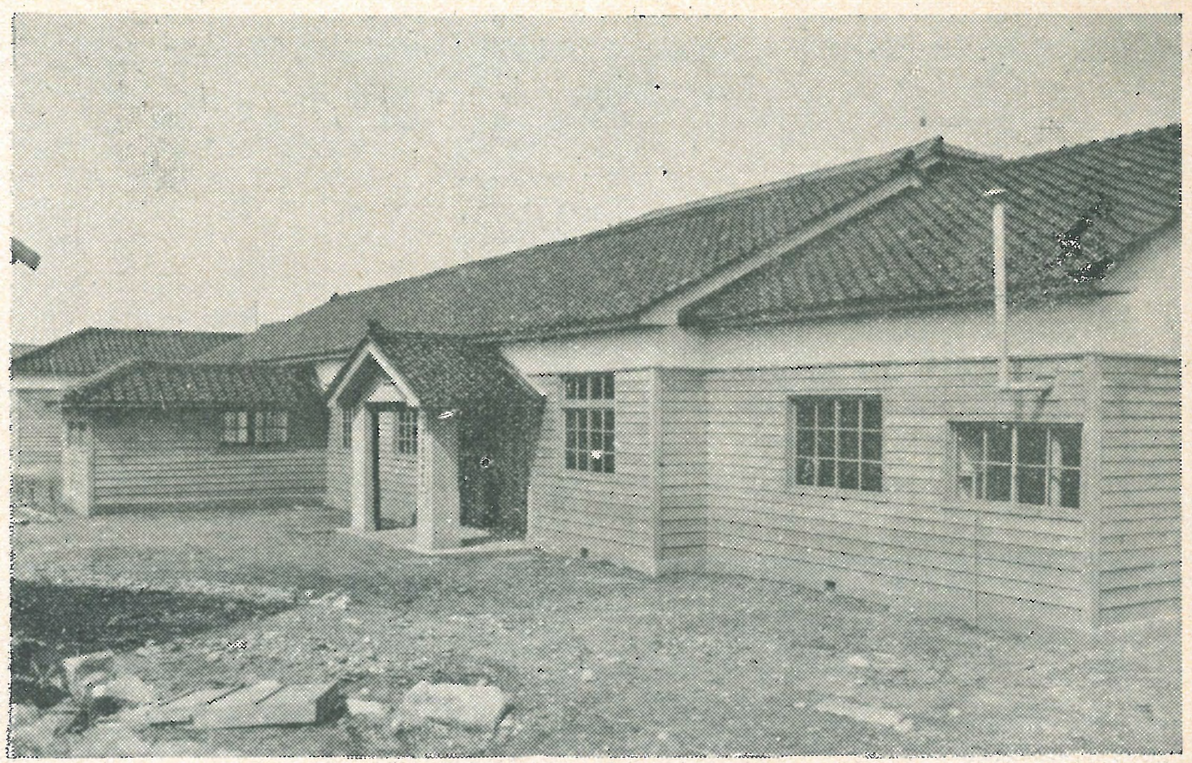
……復旧はしたが前途極めて多難……

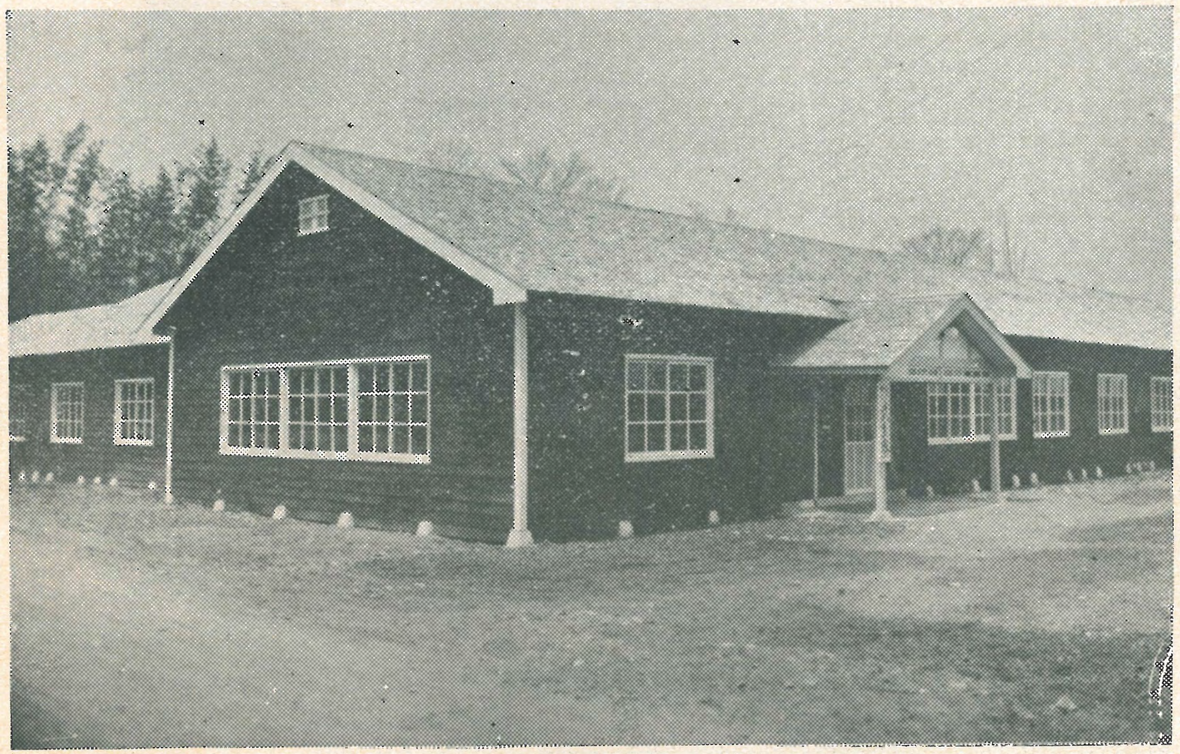
絹機約九万一千台、それは全日本の保有する三分の一に当り、筬の音の明け暮れに自他共に「東洋のリヨン」を自負したのが、戰前の福井地方の繊維工業であつた。それが戰時中の供出、戰災による燒失で終戰当時は三万二千餘台にまで激減、まさにこれも戰前の三分の一にまで減退した譯である。かくてはならじの業者必死の努力で漸く約三万六千台にまで漕ぎつけたところを震災でまたもや無慚な大打撃を蒙り全設備の五四％が罹災した。だが茲に再び官民一致しての不屈な努力は物を云つて、翌廿四年三月末の設備復舊率は、絹人絹織物八十一％、撚糸工業六十％織物染色八十五％と云つた好調を示し、依然搖がぬ「織物王國」の地固めが續けられているが、この再建途上において、はしなくも經濟九原則の適用、アメリカの物價下落、支那の政治的變革、南方地域の動搖など、經濟諸狀勢の惡化は復興の前途に一抹の暗雲を孕んでおりこれに對處する業者自身の秘策は、企業整理能力の增進、品質の向上など幾多の課題を投げかけておるが、その日の生産資材、その日の運轉資金など現前のやりくりに血眼の業者であるとすれば、そうした秘策は理論的に浮き上つて終う憂いもあり、適切な、然り今すこし適切な對策が國家的に取上げらるべきではあるまいか。とは云うものゝ輸出産業の大宗だ。惱みが大きいだけやり甲斐はある。



寫眞—左は酒伊纖維工業、中は福井精練、右は福井纖研興業株式會社工場、何れも復興なつた作業ぶり







惜みなき愛護施設

寄る邊なき病床の人、未亡人、孤兒……災害の打撃は特にこの人達に對して酷烈であつた。今ほど惜みなき愛護施設の要求される時代はない。濟生會病院、福井同胞園、金津寮、武生寮その他は、かくて急速に復興または新設され、薄倖な人達に溫かい愛情の手を差しのべている。寫眞右上は濟生會病院、同下は福井同胞園、左上は金津寮　同下は武生寮

行き惱む震災火復興

政治的愛情なくして復興ホシ

わが國の經濟を、正常な自主經濟のドツジ・ラインにまで漕ぎつけようとする經濟九原則は、好むと好まざるとに拘らず、日本經濟の一度は通過せねばならぬ試練の關門であり、國民等しく覺悟の臍をきめて、眞正面からこの嚴しさと取組んでいるのがその現狀である。かくて膿化したインフレの面を切り捨てゝ起ち上らんとする悲壯さはそれ自身非常な荒療治であるだけに、幾多の障害が前途に横たわつて波瀾萬丈と云つたところである。戰災、震災水害の三重苦の受難に絞めつけられている吾等福井縣の罹災の民ではあるが、國家の運命を決するこの經濟至上命令に對しては、絶對遵守の堅い覺悟を以て臨んでいることに間違いはない。殊に福井縣民性は由來、勤勉と質素、溫良をもつてその特質としているだけに、戰後においても供米ほか幾つもの日本一の金字塔を打建て、民主日本に魁ている。從つて諸事節約を建前とする經濟九原則に異存のないところであるが、だがその受けた災害の三重記錄は、史上にも多くその例を見ないほど酷烈を極め、罹災民の痛苦は既に言語を絶している。もしそれ經濟對策にして、この特殊性を無視し、劃一性をもつて臨むとしたならば、山野の荒廢、窮民の群像は日毎に激增し、越前の産業と住民を擧げて自殺を強いる結果ともなる。

震災一周年記念としてこの「廢墟と復興」の寫眞畫報を編纂するに當り、とかく華々しい復興の寫眞が、大方諸賢の眼を眩惑する嫌いがあるかも知れぬが、否寧ろ復興への途は前述のように極めて荆棘に充ちたものであることを呼び起したい。

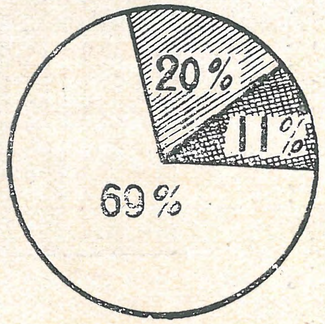
復興全般につきその困難性を詳述する餘白を持ち合さぬから、左に例證を擧げてその苦難な足取りを振り返つてみたい。

耕地復舊事業　被害總額は十四億九千七百餘萬圓の巨額に達したが、一ケ所五町歩以上、反当事業費五千圓という補助規程の制約を受け政府査定の結果、四億五千二百餘萬圓に減額され、罹災縣民の努力の結果、一億六千二百三十二万餘圓の復舊をみたが認證額は五千五百八十七万六千圓に過ぎず、經濟九原則の影響は極めて深刻であり、速かに政府において追加認證するか、特別融資の途を講じなければ放棄田が隨所に現われ、食糧對策に及ぼす惡影響は甚大なものがあろう。

耕地復旧関係

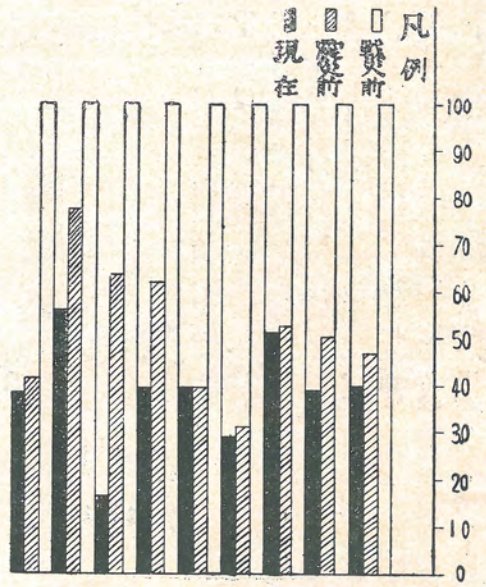
被害總額	一、四九七、〇六一、〇〇〇圓
査定額	四五二、〇六七、〇〇〇圓
二四、六、三〇現在 事業完了額	一六二、三三〇、七〇〇圓
認証事業額	五五、八七六、〇〇〇圓

凡例



■事業完了額　▨事業残額　□査定額

織維産業復舊狀況　平和産業のシンボルとして、わが國輸出産業の花形視せられて登場した本縣織維工業だけに戰災、震災での潰滅的打擊にも屈せず、設備の點ではガラ紡の低調さを除き平均八十%以上の復舊率を示し、織物王國傳統の根强さを遺憾なく發揮はしたが、經濟九原則の强力施策に伴う金融引締めのため、復興金庫融資も與えられた枠の五十%しか融資の實行を見ず、よつて業者達は無理算段して一應、設備だけは整え、さて生産の時期を迎えるや例のキャンセル問題ほか、貿易條件の惡化および運轉資金難のため休業續出という危機に直面している。よつて企業合理化のためには是非とも緊要な附屬建物の增設、排水、更生、防火、盜難、安全設備など思いもよらず、福井縣經濟の興亡を決する織維産業の窮狀は、八十萬縣民の死活問題だとあつて、政府当局の善處方を要望する聲は全縣下の隅々から、澎湃として湧きあがろうとしている。

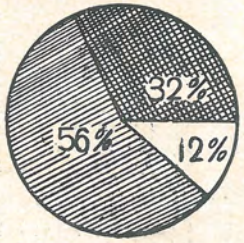


業種別	戰災前數量
絹人絹	九一、九七六台
細巾織物	二、六〇〇台
メリヤス	一、三一五台
縫製	五、五〇〇台
漁網	七〇四台
撚糸	二五七、九八四錘
ガラ紡	一四四、五〇〇錘
特紡毛	二三セット
織物染色	

公共事業復興狀況　茲もまた九原則の影響は深刻なものがある。まず被害總額は七十四億三千二百二十八万五千圓に達したが、政府査定の結果、六十二億二千九百四十七万八千圓に減額された。縣では官民一体となり總力を擧げて資金難、資材難、勞力不足を克服し復舊に邁進した結果、一周年を迎えた六月末現在で、査定額の三十五％即ち二十二億一千九百七十一万餘圓に達する事業の進捗を見たが、これに對する認證額は十五億一千八百十七万餘圓にしか過ぎず、差額六億七千七百餘万圓の財源は一部縣負擔、一部は事業主体における農協、中金その他からの借入金をもつて賄つている狀態で、疲弊その極に達している地方自治体がこの巨額負擔に堪え得るか否か縣市町村を擧げて財政的破綻に頻していると云うべく、政府の積極的援助のみがその破綻を救うものと見られている。

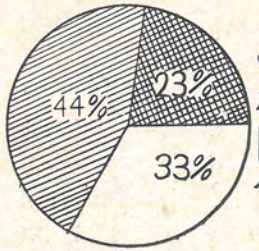
試みに罹災地の所々を巡つて見て貰いたい。

土木関係



被害總額	三、三二六、六〇〇、〇〇〇圓
査定額	二、九九五、一四〇、〇〇〇圓
直轄工事	九六九、六八〇、〇〇〇圓
縣工事	二、〇二五、四七〇、〇〇〇圓
二四、六、三〇現在事業完了額	一、〇五三、二九四、〇〇〇圓
直轄工事	二〇一、五〇〇、〇〇〇圓
縣工事	八五一、七九四、〇〇〇圓
認証事業費	六七、九二八、三〇〇圓
直轄工事	一〇一、五〇〇、〇〇〇圓
縣工事	五七、四二八、三〇〇圓

學校関係



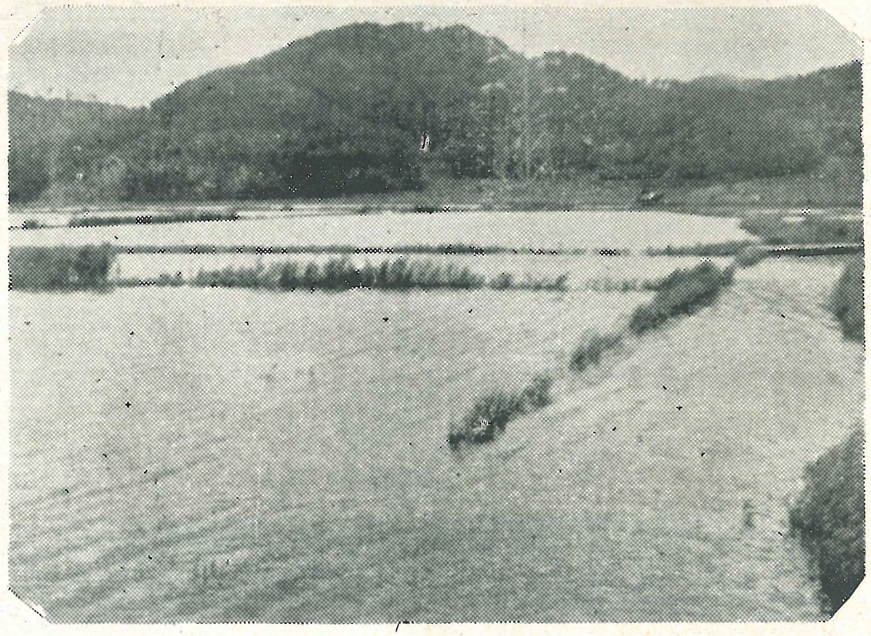
被害總額	一、五八〇、〇〇〇、〇〇〇圓
査定額	一、〇六五、〇三〇、〇〇〇圓
二四、六、三〇現在事業完了額	三六〇、一八八、〇〇〇圓
認証事業費	三三五、六二二、〇〇〇圓

耕地関係

被害總額	二、五二五、六五〇、〇〇〇圓
査定額	二、一六九、三〇八、〇〇〇圓
二四、六、三〇現在事業完了額	八〇六、三四〇、一〇〇圓
認証事業費	五一三、五七四、〇〇〇圓

凡例

事業完了額　事業残額　査定減額



そこには今以て傷々しい殘骸のまゝ放置されている橋梁、校舎などを見出すほか、地盤沈下や排水路未完成のため、僅かばかりの降雨で一面の泥海と化す曾ての美田や惡道路の多いのに驚くだろう。都市と農村とを問わず、店舗や住宅は一應外觀だけは出來たようだが、障子も襖もなく、硝子戸は板圍いと云つた實狀でも判るであろう。

一歩裏街に入ると雨漏りのひどいバラック住宅がゴミ〳〵しているばかりか、作業場はつくつたが住家のまだ建たぬ農家も相当數に達している。百方苦面して工場だけは建てたが、中に入れる機械もなく、機械は据えつけたが、運轉資金の涸渇で手を擧げている工場が多い。それでなくてさえ資金難と失業群の增大を餘儀なくされている今日、罹災地とその民の痛苦は既に言語に絶している。

自力更生、なるほど大切である。事實、默々と齒を喰いしばつて働きに働き拔きつゝある福井縣罹災民の姿こそ、全國同胞に見ていたゞきたい尊い姿である。

だが凡そ人力には限界が在るということだ。その限界以上のものを、かく疲弊しつくした罹災地とその人々に強いることは、既に無謀であると云うべきではあるまいか。

この限界以上の空隙を埋めるものは、全國民の愛情を背景にした理解のある適切な政治力のほかないだろう。然らざる限り罹災の人達に與えられるものは絶望のみとなろう。

寫眞（右）は地盤沈下のためいさゝかの雨で植付不能となる吉田郡岡保村寮附近の曾ての良田、

（中）凹凸のため無數に水溜の出來た坂井郡長畝村附近の縣道。

（左）假橋のまゝ放置してある足羽川の板垣橋、

昭和二十四年七月五日印刷
昭和二十四年八月五日發行
（頒價 百円）

編集並ニ發行者　福井縣
福井市一本木町八八

印刷者　紙山與
福井市一本木町八八

印刷所　福井印刷株式會社
電話一一・二六一五番

Sha. Hotta